

○田尻 匠議員 奈良県の田尻 匠でございます。いよいよ私が最後の質問者でございます。大変長時間にわたっておりますが、最後までのおつき合いをよろしくお願い申し上げます。

まず、最初に、ドクターヘリの夜間飛行等の検討状況について、お伺いをいたします。

先月10月22日に、防災医療常任委員会が徳島県立中央病院で開催をされました。徳島県、飯泉知事から広域医療の推進についての説明、報告を頂戴いたしました。また、その後、徳島県ドクターヘリ、KANSAI・藍バードの視察と説明を頂戴いたしました。

私の奈良県はドクターヘリがまだ配備されておられません。来年の3月に奈良県の吉野に、南なら総合医療センターに配備される予定で、今着実に準備が進められております。そのような事情で、強い関心を持って説明を聞き、機内を見せていただきました。改めて藍バードは空飛ぶ救命室として、救急医療に必要な機材や資材を装備し、医師や看護師が同乗をし、救命治療専用のヘリコプターでございます。ドクターヘリの搭乗要員は操縦士、整備士、医師、看護師で搬送患者を含めて6名までが搭乗できるようです。そして、ドクターヘリの目的として、短時間で傷病者に医療者が接触をし、直ちに救急治療が開始をされ、究極の医師デリバリーシステムとして、巡航速度、時速200キロで飛行し、搬送時間を大幅に短縮して、救命率の向上、後遺障害を軽減するとされています。ドクターヘリの出動基準は、生命の危機が切迫しているのか、その可能性が疑われる、また、重症傷病者、または、特殊救急疾患患者で、搬送時間短縮や救急災害現場において医師による診断、治療が必要とされています。ドクターヘリの運航時間は午前8時から日没まで出動され、365日毎日運航を予定されておりますが、原則として、有視界飛行で何よりも安全第一を原則とされています。

そこで、関西広域救急医療連携計画の中で検討されています、運行時間の延長及び夜間における運航が議論されているかと思っておりますが、ドクターヘリは有視界飛行が原則であることから、ドクターヘリの夜間運航実施については安全性や効率性の確保など、さまざまな課題がございます。具体的には、基地病院、離着陸場における夜間照明設備の整備、夜間運航が可能な機体の確保、パイロット、整備士の確保、基地病院における搭乗医師、看護師の確保、騒音問題に対する地域の理解など、さまざまな課題がございます。現在の検討状況について、飯泉委員にお伺いをいたします。

次に、ドクターヘリの契約方法について、お伺いをいたします。

厚生労働省におけるドクターヘリ導入推進事業の基準額を参考にいたしますと、1機当たり年間約2億円の経費が必要とされています。現時点において、ドクターヘリごとに運航会社と個別に契約を締結し、各府県の負担額については利用状況に応じて算出されていますが、和歌山県ドクターヘリ、大阪府ドクターヘリ、3府県ドクターヘリ、徳島県ドクターヘリ、兵庫県ドクターヘリ、京滋ドクターヘリの運航会社も主要機材ヘリコプターもユーロコプター式EC135と同一であります。

そこで、お伺いをいたします。

巨額の運航費用の軽減のため、個別で提携している契約を一括して契約するなど、今後より効果的、効率的な運航体制が求められると思っておりますが、いかがでしょうか、併せてお

伺いをいたします。

次に、北陸新幹線に関する今後の取り組みについて、お伺いをいたします。

北陸新幹線敦賀から以西ルートとの決定と早期着工は、関西広域一帯と大阪地域に人、情報、経済効果をもたらす新しいよき波及効果として、一日も早いルート決定と着工を多くの皆さんが待ち望まれているところです。

しかし、敦賀以西ルートはいまだ決定されていないのが現状でございますし、現在、敦賀・大阪間ルートは、米原ルートに加えてJR西日本案とされます小浜・京都ルート、さらに、小浜・舞鶴・京都ルートがございます。関西広域連合としても、平成25年4月に米原ルートが適当とされました。しかし、今年3月の連合議会において、北陸新幹線について、私の質問に際し、1月28日にJR西日本が小浜・京都・大阪ルートを推進するという表明を受けて、関西広域連合が米原ルートを主張することの取り組みを堅持することは困難だと答弁をいただきました。米原ルートを白紙撤回というより、事実上、難しいと判断をされたところであります。諸事情を考えて、再提案は行わないと連合長から答弁をいただきました。しかし、ルート候補の地元の自治体、県民、関係団体の誘致活動は多くの皆さんが認識をされているところであります。これからの目標は一日も早いルート決定、工事着手、完成を目指すことに活動を展開されることだと存じます。

北陸新幹線の現在の情報は2022年度開業予定の北陸新幹線の金沢・敦賀間の延伸計画のうち、与党プロジェクトチームは金沢・福井間についてはさらに2年前倒しで先行開業を行うのが検討されていますが、施工能力や技術面の課題を鑑みれば、2022年度の末の開業すら極めて厳しい工期であると憶測をされます。敦賀・大阪間のルートは将来のJRや並行在来線の運行を担う営業主体の経営や北陸、関西沿線地域の経済、社会に対して極めて大きな影響を及ぼすものであります。政府の整備新幹線問題検討委員会が2009年12月に開催された中で、未着工区間については、安定的な財源の見通しの確保、収支の採算性、投資効果、営業主体としてのJRの同意、並行在来線の経営分離についての沿線自治体の同意をすることとされており、数多くの高いハードルを越えていくことが必要とされますが、関西広域連合として、早期完成を目指して、ルートの決定と工事着手を関係機関に強く要望していくべきだと考えますが、いかがでしょうか。

また、北陸新幹線工事の財源については、関西広域連合としてどのように取り組もうとされているのか、併せてお伺いをいたします。

次に、関西ワールドマスタースゲームズ2021に向けたスポーツツーリズムの対策の強化について、お伺いをいたします。

先日、10月26日、大阪において、一般財団法人関西ワールドマスタースゲームズ2021組織委員会は、2021年5月15日から5月30日までの16日間開催をされます大会の競技種目と競技開催地を理事会で決定し、総会で発表されました。当時の総会には、森喜朗名誉会長、鈴木大地名誉顧問、スポーツ庁長官、会長の井戸関西広域連合長、森詳介関西経済連合会会長、また、応援大使でタレントの武井壮さんや関西広域連合委員の地方自治体の皆さん方や関西広域連合議会議員及び地方議員の皆さん方がたくさん出席をされる中で発表をされました。

ワールドマスターズゲームズは誰でも参加できる世界規模の国際総合スポーツ競技です。鈴木長官は、当大会において、スポーツ庁は一億総スポーツ社会の実現に向けて取り組んでおり、ワールドマスターズゲームズ2021関西に期待をしている。国内外からの参加者に各開催地の文化やおもてなしを味わっていただく、世界に発信していただく絶好の機会と考えていますと挨拶をされました。5月15日の開会式は京都市で、5月30日の閉会式は大阪市で開催が予定をされております。

関西ワールドマスターズゲームズは国際マスターゲーム協会が4年ごとに主催する原則30歳以上のスポーツ愛好者であれば誰でもが参加できる生涯スポーツ国際総合競技大会、オリンピックの翌年に開催をされ、1985年、トロントで第1回の大会が行われました。2021年の関西大会は、第10回目、アジア初の大会でございます。今、申し上げましたことは、ほとんどの関西人や日本人の認識や認知度は非常に低いものだと憶測されています。私の友人や知人にワールドマスターズゲームズが関西に、奈良に来るんですよといっても、ワールドマスターズとは何ですか、何をやるんですかとよく聞かれます。この感覚をおもちの人は私、一人ではないと思います。国は2020年の東京オリンピックの話題ばかりが中心となっていきますが、せつかくの関西復権にかけたビッグイベントですから、ぜひと国内外から参加者だけでなく、スポーツ愛好者の誘致に積極的に取り組むべきと考えます。その取り組みの一つとして、各開催府県と開催地と相談の上、複数の競技大会の観戦ができ、地域の観光地案内や宿泊案内も兼ねた、盛り込んだ周遊ルート等の提案をしたらいかがかと存じますが、どのようにお考えでしょうか、ご所見をお伺いをいたします。

○議長（西沢貴朗） 飯泉広域医療担当委員。

○広域医療担当委員（飯泉嘉門） 田尻議員さんのご質問にお答えをさせていただきます。

ドクターヘリに関しまして、2点、ご質問いただいております。

まず、運航時間の延長及び夜間運航の検討状況についてであります。

運航時間の延長や夜間運航につきましては、救命率の向上や災害時における対応能力の強化につながる一方で、その実現に向けましては、議員からもお話のありました、有視界飛行であるドクターヘリの安全性の確保をはじめ、さまざまな課題を検証する必要があります。そのため、各基地病院、構成団体、そして、運航会社のほか、有識者の皆様方にもご参加をいただき、平成25年11月に設置をいたしました、ドクターヘリ関係者会議におきまして、これまで合計6回会議を開催し、その可能性につきまして議論を重ねてきているところであります。

まず、夜間運航につきましては、基地病院や離着陸場における夜間照明設備の整備、また、搭乗人材のさらなる確保、そして、近隣住民の皆様方のご理解などの課題が指摘をされております。こうした中、救急現場に医師、看護師をおろし、ドクターヘリは日没までに帰投するドクタードロップ方式により、安全性を考慮した上で、救急処置が可能な時間帯を延ばす対応を行っているところもございます。

さらに、徳島県におきましては、医師を同乗させた自衛隊ヘリによる夜間における救急患者搬送訓練を数回実施しているところであり、ドクターヘリが出動できない夜間の災害

に備えて、連携の効果を実証しているところであります。

また、運航時間の延長につきましては、全国的に午前8時半から日没までの運航が多い中、和歌山県ヘリと徳島県ヘリにつきましては、従来から運航開始を午前8時からとしているところであり、本年10月からは兵庫県ヘリも秋冬期にこれまでより30分早い午前8時に前倒しをする運用を新たに開始いたしているところであります。

現在、全国的にも夜間運航を行っているドクターヘリはありませんが、全国での検討状況もしっかりと注視しながら、安全性確保を第一に実現可能な運航時間の延長についての取り組みを引き続き検討してまいりたいと考えております。

次に、一括契約など、より効果的、効率的な運航体制の検討状況についてであります。

現在、管内6機のうち、和歌山県ヘリを除く5機を関西広域連合により運航しているところでありますが、連合のドクターヘリはまず各府県において導入し、その後、広域連合に移管されてきた、こうした経緯があり、契約の方式が異なっているところであります。5機のうち、大阪府ヘリ及び徳島県ヘリに加え、平成27年4月から導入をされた京滋ヘリの3機については、広域連合で一括して運航会社と委託契約を行っております。

一方、3府県ヘリ及び兵庫県ヘリは、広域連合から基地病院に補助を行い、基地病院と運航会社との間で契約を締結いたしております。

また、こうした契約方式の違いに加え、山間部が多い地域であることから、要請ニーズが高く、全国一の運航件数となっている3府県ヘリにつきましては、他のドクターヘリと契約条件が異なっており、一括契約についての検討課題となっております。

今後、平成29年度末の鳥取県ヘリ導入によりまして、管内6機から管内7機体制となる救命救急効果が高いとされる30分以内の救急搬送体制、二重、三重のセーフティネットの拡充を図る中、各構成団体や基地病院、消防機関との協議を深め、運航時間の延長や契約方式の検討のみならず、他地域との連携や災害対応能力の強化に向けた取り組みを進展させるなど、関西広域連合による一体的な運航による全国でも先進的なドクターヘリ事業の利点をしっかりと生かし、さらなる効果的かつ効率的な運用を進化させていきたいと考えております。

○議長（西沢貴朗） 下広域職員研修担当・広域農林水産担当副委員。

○広域職員研修担当・広域農林水産担当副委員（下 宏） 北陸新幹線に関する今後の取り組みについて、お答えをいたします。

関西広域連合では、これまでも国に対しまして、北陸新幹線敦賀以西の整備について、一日も早くルートを決定し、大阪までの整備を早期にされるよう、要望してきたところでございます。

北陸新幹線整備に係る財源につきましても、大阪までの早期整備に必要な財源を確保し、予算措置を講じるとともに、整備新幹線の国家プロジェクトとしての重要性を踏まえ、国と地方の費用負担のあり方について、財源構成の枠組みの見直し等の検討をするよう、要望してきたところでございます。

国におきましては、先日、北陸新幹線敦賀・大阪間のルートに係る調査結果を出したところでございますが、関西広域連合としては、今後、国や与党の整備新幹線建設促進プロ

ジェクトチームなどの動向を注視しながら、一日も早い敦賀以西のルート決定と大阪までの早期整備に向けた予算の確保及び財源構成の枠組みの見直し等を求めてまいりたいと考えてございます。

○議長（西沢貴朗） 井戸広域連合長。

○広域連合長（井戸敏三） ワールドマスターズゲームズ2021年に向けたスポーツツーリズムの対策の強化について、お答えをいたします。

関西ワールドマスターズゲームズ2021は、10月26日に32競技、55種目の実施競技種目と開催地を決定しました。競技に参加してスポーツを楽しむだけでなく、スポーツと観光を楽しむ大会という特徴をこの大会は持っております。大会の参加者は、家族や知人と来訪し、大会前後の期間に開催地に滞在して、周辺の観光地めぐりなどを楽しむ方が多いと考えられます。とりわけ、海外からの参加者は、ツーリズムのきっかけとして大会に参加し、国内からの参加者に比べ、グループの規模も大きく、滞在日数も長期間にわたると予想されております。これら海外からの約2万人を含む参加者約5万3,000人、さらに随行者を含めると約15万人を超える来訪者が関西広域圏内の開催地域を訪れるのではないかと想定されます。

来年4月には、第9回大会がニュージーランドのオークランドで開催されますが、その大会に向けて、競技への参加とマウントクックやミルフォードサウンドといった世界遺産などの観光地周遊をパックとしたツアー商品が日本の旅行会社から販売されています。ワールドマスターズゲームズは観光分野にとっても魅力的なイベントと考えられております。広域連合は、本年3月に関西広域スポーツ振興ビジョンを策定しました。生涯スポーツ先進地域関西、スポーツの聖地関西、スポーツツーリズム先進地域関西、この3つの将来像を掲げております。このうち、スポーツツーリズム先進地域関西の実現に向けた戦略といたしましては、関西ワールドマスターズゲームズ等の世界規模のスポーツイベントの日本開催を好機として捉えまして、広域的なスポーツツーリズムの整備、促進に取り組むこととしております。

議員ご提案の競技開催地と関西各地の観光地を盛り込んだ周遊ルートの創出については、豊富に点在しております観光資源を生かした滞在・還流型の観光ルートを設定する必要があると考えています。現在取り組みを進めています広域観光周遊ルート、美の伝説を踏まえまして、関西各地域で開催されるさまざまな競技への参加、観戦と世界遺産をはじめとする文化財や日本遺産めぐり、食や文化の体験等々を組み合わせた地域内を広く周遊、滞在してもらえる観光ルートの設定に向けて、ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会や観光関係団体との連携のもとに検討を進めてまいりますので、これからもよろしくご指導いただきたいと存じます。

○議長（西沢貴朗） 田尻 匠君。

○田尻 匠議員 答弁をそれぞれ頂戴いたしました。ドクターヘリについては、前向きにかなり深い議論を頂戴いたしております。ぜひとも、徳島県が日本の最前線で先頭を走っていただきますよう、心からともに応援をしてみたいと思っております。

また、北陸新幹線は大変デリケートな時期に入っておりますが、かなり厳しい財源

や、あるいは、各地方自治体の皆さん方や地域住民の皆様方の思いがあらうかと思いますが、しかし、完成をしなければ全くの意味がないところがございますので、その点大変難しい高度な判断になろうかと思いますが、よろしく願い申し上げたいと思います。

それから、ワールドマスターズゲームズでございますが、今ご答弁をいただきましたように、大変前向きにいろんな形で考えていただいておりますことは、非常にありがたくうれしく思うんですが、やはりせつかくお見えいただく皆様方の安全性の問題を私は非常に懸念をいたしております。防犯や治安やテロ対策とともに、我が奈良県でも今、たくさんの海外から観光客の皆さん方がお見えをいただきますが、文化の違いや、あるいは、交通規則の違いや、あるいは、交通標識が統一されていないということで大変いろんな難しい問題がございます。その点も含めて、またこれからご検討いただきますことをお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。